

第 3 回 箕 郷 地 域 審 議 会

総合計画前期実施計画事業に係る質疑

事業名	No	質疑	回答
箕輪城跡保存整備事業について	1	箕輪城跡の保存整備を次世代に引き継いでいくため、行政と市民、ボランティア等を含め、役割や期待することについて決まっている方針があれば教えて欲しい。	史跡整備等ハード事業は、今後も行政が行う。ソフト事業については、現段階で、どこまでを行政が行いどこまでを民間が行うかは決まっていない。しかし、現在も箕輪城の来場者にボランティアの方が解説等を行っている。将来的に整備が進めば、そのような活動がさらに必要になってくると考えられるので、現在活動している団体等の力をさらに活かしていけるよう今後検討したい。
	2	先日、犬山城を見学した。箕輪城と犬山城では地理的条件が違うが、犬山城の近くには資料館が建設されていた。資料館があるとまた違った環境になる。箕輪城に関係する出土品や資料を収集、整理できるような環境整備ができないのか。また、大手門の入口に大型バスが入れるようになると、観光客も増えるのではないか。道路整備と資料館の整備を検討してもらえるのか。	整備事業については、現在、短期計画として、二の丸のトイレ設置などの施設や環境整備を行っており、本丸やその周辺の整備を行うのが第一段階であると考えている。資料館等の施設整備は今後の課題であり、将来的に検討したいと考えている。また道路整備については、城跡の整備が進んでいく中で、必要があれば関係部局と調整を図りながら検討したい。

その他の質疑

内容区分	No	質疑	回答
箕郷地域の物産販売の促進及び開発事業について	1	<p>現在、農業・畜産業共に非常に厳しいと思われる。群馬を代表する農畜産業を次代に引き継ぐためにも物産販売の促進、開発事業は、重要かつ必要と捉えている。これら事業の取り組みについて、今後の予定はどうなっているのか。</p>	<p>ご指摘のとおり、現状の農業は従事者の高齢化や後継者不足等大変厳しいものがある。しかし、一方では食に対する安心・安全への関心は高く、多くの期待があることも事実である。</p> <p>そうした中、高崎市では合併に伴い新たな地域の中で各種多様な農畜産物を取り扱うこととなり、農業はますます重要な産業の一つとなった。</p> <p>高崎市産農畜産物の消費の拡大を図っていくには、積極的なPRを進め、ブランド化を図っていく必要があると認識している。</p> <p>高崎市は「地産地消」ならぬ「地産多消」をうたい、県・JA・市で広報活動を行う実行委員会を組織し、市内農畜産物のすばらしさを積極的にアピールし、そのブランド作りを進めるため、首都圏各所において「高崎市産農畜産物」の広報・宣伝活動を進めている。特に情報発信の一つとして、日本最大規模の飲食サイト「ぐるなび」との連携では、シェフツアーや料理コンテストの「高崎賞」協賛などを実施したほか、先日は東京都恵比寿で高崎市が中心となった物産販売を行い、PRを行った。</p> <p>(次項へ続く)</p>

<p>箕郷地域の物産販売の促進及び開発事業について</p>			<p>(前項の続き)</p> <p>今後も関係機関が一層の連携を図り、各種活動が農業者支援につながるよう実施していきたい。</p> <p>高崎の農産物は、価値に見合った評価を受けていないと思っている。</p> <p>今までは、農産物を売る手法というと、全国均一的に全市町村で同じ事をやってきた。例えば、東京にある群馬物産センターの「ぐんまちゃんち」へ知事や市町村長が行って、ハッピーを着て販売促進をやるというのが古典的な手法で、昔から今まで変わっていない。この手法はやらないよりはやったほうが良いとは思っている。「地産地消」という言葉は現在では普通名詞になり、地元で生産したものを地元が大切にしていって地元で販売しようとする事であるが、これでは販売する量が少なすぎる。</p> <p>これからの農業は、職業として成立しなければ後継者が育たない。それには「地産多消」という考えのもと、首都圏でたくさん販売できる仕組みを確立しなければならない。少し新しい手法として、JAはぐくみ・JAたかさき・JAたのふじの3つのJAに協力してもらい、食のトップ・サイト「ぐるなび」を活用した(次項へ続く)</p>
-------------------------------	--	--	---

<p>箕郷地域の物産販売の促進 及び開発事業について</p>			<p>(前項の続き)</p> <p>販売促進活動を展開している。「ぐるなび」は首都圏に多数の飲食店を傘下に行っている情報サイトで、先ごろ高崎市内に事務所を開設した。少々手間暇はかかったが、「ぐるなび」の事務所が高崎にあるので、高崎産の農産物の販売に力を入れてくれるということで、そこと組んで首都圏で高崎の農産物がたくさん売れるように仕掛けている。恵比寿や渋谷など、トレンドィーな街で売れると、口コミがすごいので、販売量も増加すると思う。とにかくもっとたくさん販売できるようにするためには何でもやろうと思っている。</p> <p>二つ目に、1年半後に高崎に完成するスマートインターチェンジの乗入れ口と出口の一番良い場所に、高崎の農産物の大販売センターを造ろうと思っている。取り扱うものは、高崎の農産物だけに絞るかどうかわからないが、いろいろトライしていこうと思う。</p> <p>生産者も少し努力してもらわないといけない。例えば、箕郷の梅はすごい。しかし、私の首都圏に住む知り合いは、箕郷の安い梅より本当に良いものをお土産に持って帰りたいと言う。このような需要に答えるための工夫が必要であると思う。現在の若い生産者はいろいろとトライしているので、上手く需要とリンクさ (次項へ続く)</p>
------------------------------------	--	--	--

<p>箕郷地域の物産販売の促進及び開発事業について</p>			<p>(前項の続き)</p> <p>せて高崎の農産物がたくさん売れるようにしようとしている。うどんもそうで、讃岐うどんの店がたくさんあったが、高崎うどんの店がないのは残念である。</p> <p>高崎産の価値の高い農産物をたくさん作っていただき、より販売量を増やすために、皆様と一致協力連携していきたいと思っている。</p>
<p>歩行者や自転車に配慮した道路整備について</p>	<p>1</p>	<p>前回「安価な自転車交通整備」を要望したが、その後の進捗状況はどのようになっているのか。</p> <p>また、例えば地域住民から特に危険な箇所をピックアップして重点事業箇所とし、交通弱者や歩行者、自転車の方を対象にした、高さや障害物などを考慮した見やすい標識等を設置し、更に、その成果を市民からアンケートを取る等して評価し、他のケースに活かしていくという考え等はあるのか。</p>	<p>前回懇談会時に、歩行者や自転車に配慮した道路整備をして欲しいとの要望があったので、課員に交通弱者の視点で整備を行うよう指示した。全てがそのような整備になったとまでは言えないが、小さな事だが、自転車が滑らないように、金属製の蓋(グレーチング)を以前より目の細かい物に入れ替えた。また、路肩が崩壊しかけている場所等には、路肩の保護で舗装止め等を行っている。また、歩行者が側溝に落ちないように、蓋や、コンクリートを打ち、対処している。学校付近の蓋については、歩行者が滑らないように滑り止めの物を使用するようにしている。</p> <p>このような整備は、地域住民から危険と思われる箇所を、区長を通して建設課へ要望をもらい、また、小さな補修箇所等は通行人からの通報で対処している。</p> <p>(次項へ続く)</p>

歩行者や自転車に配慮した道路整備について			<p>(前項の続き)</p> <p>今後も工夫をして、効果が上がるような整備をしていきたい。</p> <p>ご提案の件は、地域住民から特に危険な箇所をピックアップして頂き、重点事業箇所を位置づけてとあるが、学校区の中で、地域住民代表者・学校関係・行政の3者で話し合い、重点箇所を位置づけ、整備手法等の研究をしていきたいと思う。</p>
防災行政無線について	1	<p>健康診断や有害鳥獣等のお知らせが開始前から終了まで毎日朝晩放送されている。放送の期間が長く、また朝晩2回と頻繁に放送されるので、防災無線の電源を切っている家庭が多くあると思われるが、これでは災害発生時に放送した場合に情報が伝わらないことが懸念される。防災無線の使用方法を検討してもらいたい。</p>	<p>防災行政無線の使用方法を検討してもらいたいとのことであるが、防災情報や人命に係わる情報のみを放送すると、使用頻度が極端に少なくなってしまう、実際に使用できるかの確認が、定期点検時のみになってしまう。行政情報を放送することで防災行政無線が正常に放送されているのかを確認するという点もある。</p> <p>また、せっかくの施設を防災情報だけでは、もったいないという意見もある。</p> <p>このようなことから、支所としては、方法を工夫しながら使用していきたいと思っている。ご理解をお願いしたい。</p>
鳴沢湖堤防災害復旧工事について	1	<p>現在鳴沢湖堤防災害復旧工事が施工されているが、工期が延長されていると思う。小学生は通学路を変更して迂回しており、また、農作物の運搬でも迂回をしている。完成時期はいつになるのか。</p>	<p>昨年3月11日の東日本大震災時、堤防に亀裂が生じた。現在安全確保のため堤防上の市道を全面通行止めとし、堤防の災害復旧工事を施工している。当初の(次項へ続く)</p>

鳴沢湖堤防災害復旧工事について			(前項の続き) 予定では6月末の工期であったが、工期を延期し11月末の完成予定である。
遊休農地対策について	1	遊休農地が今後益々増加するという記事があった。記事に前橋市が群馬県の補助を受けて遊休農地を減らしていく方向であるとあった。記事では高崎市のことは書かれていなかったが、遊休農地を減らしていくことについてどのように考えているのか。	高崎市でも遊休農地は増加している。耕作をしない農地については、遊休農地を貸してもらえ、または活用してもらえ等の案内をしている。現在、農業委員会でも遊休農地環境をどのようにするか検討している。地方公共団体ごとに事情が異なるので対策も違っている。高崎市も問題意識を持っており、どのような対策ができるのか一生懸命検討している。